

VII 令和6年度 九州地区研究大会報告

令和6年度九州地区盲学校教育研究会

1 大会概要

- (1) 大会主題 令和6年度 九州地区盲学校教育研究会福岡大会
- (2) 期 日 令和6年11月15日(金)
- (3) 会 場 福岡県立北九州視覚特別支援学校

2 内 容

- (1) 第1分科会(学習指導1)
 - ① テーマ 「視覚障がいのある幼児児童生徒一人一人の豊かな生活を目指した指導の在り方」
 - ② 協議題
 - ア ICTを活用した情報活用能力の育成の取組と課題
 - イ ICTを活用した授業づくりの取組と課題
- (2) 第2分科会(学習指導2)
 - ① テーマ 「ICTを活用した授業づくりの取組と課題」
 - ② 協議題
 - ア 確かな学力を身に付けさせるための教科と自立活動を関連させた取組について
 - イ 生徒の実態把握の仕方、情報共有の場の設定について
- (3) 第3分科会(生活)
 - ① テーマ 「寄宿舎における学ぶ力や生活力の育成」
 - ② 協議題
 - ア 学ぶ意欲を支える実態に応じた指導や手立ての工夫について
 - イ 学舎が連携した生活力育成の取組について
- (4) 第4分科会(特別支援)
 - ① テーマ 「視覚特別支援学校(盲学校)における通級指導教室での取組や地域の特別支援教室等との連携について」
 - ② 協議題
 - ア 通級指導教室の現状及び地域の学校との連携について
 - イ 通級指導教室等(地域支援担当者)の専門性の維持継承のための取組について
- (5) 第5分科会(理療)
 - ① テーマ 「学習者同士の対話活動を通じた課題解決力向上のための授業づくりの工夫～ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践～」
 - ② 協議題
 - ア 生徒の主体的・対話的な学びを促すための指導の工夫について
 - イ 他校間連携の在り方について

3 報 告

今年度は、本校が第1分科会の発表担当であった。本校からは、研究主題「卒業後の豊かな生活を目指して～ICT活用を通じた情報活用能力の育成～」について、ICT活用における組織的な取組から実践等について、発表を行った。本校のICTに関する専門性の高い教員が学部を越えて指導を行う組織づくりや、タブレット端末指導の系列表等に参加者が関心をもってくださり、多くの質問をいただいた。後日、他県から連絡があり次年度の組織体制の参考にするとのことであった。指導・講評では、「本校の発表を九州内へ発信してください。」と高い評価をいただくことができた。

第 29 回九州地区聴覚障がい教育研究大会（福岡大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫」
～言語能力の育成を図り、思考力・判断力・表現力を向上させるための指導・支援～
- (2) 期 日 令和6年11月7日（木）～8日（金）
- (3) 場所（会場） 福岡県立福岡聴覚特別支援学校
福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

2 内 容

- (1) 公開授業
幼稚部（1年1・2組, 2年1組, 3年1・2・3組／総合保育）
小学部（1年1組, 2年2組／国語 3年2組／算数 4年1組, 5年1組／社会
6年1組／算数 3年あすなろ2組, 4年あすなろ3組／生活単元学習）
中学部（1年1組／理科 2年1組／社会 1年楠1組, 3年楠2組／生活単元学習）
- (2) 研究協議会・分科会
教科指導、寄宿舎教育、自立活動、関係機関との連携、センター的機能、重複障害教育
- (3) 記念講演 「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫」
～特別支援学校（聴覚障害）の全国調査結果を踏まえて～
山本 晃 氏（国立特別支援教育総合研究所）

3 報 告

福岡県立福岡聴覚特別支援学校、福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校は互いに隣接しており、幼稚園から中学部、そして高等部までの系統だった一貫した教育が受けられる環境にある。

記念講演は、聴覚障がい教育の現状と課題、並びに自ら学ぶ力を育むための教育的対応や、専門性向上に関する取組と情報提供について、5年ごとの経年調査（全国調査）の結果を基に客観性のある実践的な内容であった。

公開授業は、幼稚部、小学部、中学部、重複障がい教育の4つに分かれ、参加者が自由に参観することができた。幼稚部では、総合保育として「芋ほりごっこ」や「色水遊び」そして、「チーム対抗しっぽとり」といった内容で授業が行われていた。体験したことを想起して指文字や音声を使って、言葉や数の違いなどについてのやり取りが見られた。また、実物を使った掲示物や教師の言葉かけなど、子供たちが自ら表現できるための仕掛けがなされていた。

研究協議分科会では、分科会3「自立活動（聴覚活用・発音・発語、言語指導）」で、幼児児童生徒の多様化に対応し、思考力・判断力・表現力を向上させる自立活動の在り方について各校での取組を出し合い、情報共有を行った。同志社大学教授中瀬浩一氏による講評の中で、日本語の感覚は、日頃の休み時間等のやりとりの中からでも養えるということや、子供たちに対してインプットするだけでなく、どうアウトプットできるのかが大切だという内容が印象に残っている。

分科会4「自立活動（コミュニケーション、障害認識等）」では、延岡しるやま支援学校がレポート発表を行った。今年度は「キャリアプラン細目表」を用いた実態把握をもとに「自分ノート」を作成し、あらゆる学習場面で活用することで、児童生徒の障がい理解を深め、コミュニケーション力を高めることができるといった内容についての実践発表が行われた。

第58回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「佐賀大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 共生社会の中で自分らしく主体的に活動する子どもの育成を目指して
- (2) 期 日 令和6年8月2日(金)
- (3) 場所(会場) ホテルグランデはがくれ(参集とオンラインのハイブリット型)

2 内 容

- (1) 開会行事
- (2) 記念講演 演題「これからの特別支援教育を担う教職員に求められる資質や専門性とは何か」
講師 帝京平成大学 人文社会学部 教授 田中 良広 氏
- (3) 分科会
- (4) 閉会行事

【分科会(全7分科会)】

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	各教科等の指導 (小学校段階)	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた各教科等の指導のあり方	福岡県・長崎県・熊本県
2	各教科等の指導 (中学校・高等学校段階)	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた各教科等の指導のあり方	長崎県・大分県・沖縄県
3	各教科等を 合わせた指導	児童生徒一人一人が力を発揮し、主体的に活動する各教科等を合わせた指導のあり方	大分県・宮崎県・佐賀県
4	キャリア教育 ・進路指導	児童生徒が自分らしく主体的に自立と社会参加を目指す進路指導のあり方	宮崎県・鹿児島県・福岡県
5	自立活動	主体的に困難の改善・克服に取り組む自立活動の指導のあり方	鹿児島県・熊本県・沖縄県
6	自閉スペクトラム症	子どもたちの自立と社会参加につなげる特別支援教育の充実を目指して	長崎県・宮崎県
7	自閉スペクトラム症		佐賀県
8	LD、ADHD		鹿児島県・熊本県

3 報 告

今年度の大会は、第52回九州地区情緒障害教育研究会〈佐賀大会〉との合同開催で、参集とオンラインのハイブリット型で開催された。記念講演では、特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議の概要、教師の専門性向上のための具体的方向性、特別支援教育の課題と今後の在り方等について講演をいただいた。また、分科会については、第1～5分科会を九特連大会、第6～8分科会を九情研大会として、各県からの提案や協議が行われた。第1分科会では、小学校段階の各教科等の指導についての発表が行われ、児童の興味や関心を題材や教材に上手く取り入れたり、ICT機器を活用したりすることによって、児童生徒の主体的な学びにつながったという実践報告が多くあり、大変参考になった。来年度の大会は、長崎県で開催予定である。

第64回 九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 熊本大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「病弱虚弱教育の今後の在り方を求めて～多様化するニーズへの対応～」
- (2) 期 日 令和6年8月22日(木)
- (3) 場 所 オンラインによる動画配信および研究協議

2 内 容

- (1) 開会行事・総会
 - ① 九病連理事長あいさつ
 - ② 祝辞ならびに来賓紹介
 - ③ 総会
- (2) 講演Ⅰ
 - 演題 「病気の子供の学びの充実のために」
 - 講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課調査官 相原 千絵 氏
- (3) 講演Ⅱ
 - 演題 「心と身体、ときどき病気の話」
 - 講師 医療法人横田会向陽台病院 臨床心理士・公認心理師 辻 翔太 氏
- (4) 分科会

分科会名	提言校	指導助言者
①教科等の指導	佐賀県立中原特別支援学 鹿児島県立加治木特別支援学校	熊本県教育庁県立学校教育局特別支援教育課 指導主事 寺尾 誠一郎 氏
②自立活動の指導	福岡市立屋形原特別支援学校 熊本県立黒石原支援学校	熊本県教育庁県立学校教育局特別支援教育課 指導主事 松下 慎一郎 氏
③発表校設定テーマ	福岡県立古賀特別支援学校 長崎県立大村特別支援学校	熊本県教育庁県立学校教育局特別支援教育課 主 幹 前田 忠彦 氏

3 報 告

講演Ⅰでは、「病気の子供の学びの充実のために」の演題で、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課調査官の相原氏による講演が行われた。病弱教育の現状や学びの充実という観点において、多くの資料や統計等を示していただき、病弱教育の近年の動向や、課題とそれに対する取り組みについて理解することができた。

講演Ⅱでは、「心と身体、ときどき病気の話」の演題で、医療法人横田会向陽台病院の辻氏による講演が行われた。心理社会的発達理論に基づいて、乳幼児児童生徒それぞれの年齢における発達の特性や、それに応じた大人の心構えや関わり方の留意点などについて、大変興味深く聴講できた。

分科会では、教科等の指導、自立活動の指導、発表校設定テーマの3分科会に分かれて、職員それぞれが興味のある分科会に参加した。提言校の実践発表から、指導・支援の方法や教材・教具等の工夫、学校全体での取り組みなどが示され、大変参考になった。分科会の後半には協議が行われ、参加各校の実情や取組等も知る事ができ、大変有意義な時間となった。

第 52 回九州地区情緒障害教育研究会 佐賀大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「共生社会の中で自分らしく主体的に活動する子どもの育成を目指して」
- (2) 期 日 令和6年8月2日(金)
- (3) 場所(会場) ホテルグランデはがくれ(佐賀市天神2丁目1番36号)

2 内 容

○ 記念講演

演題 「これからの特別支援教育を担う教職員に求められる資質や専門性とは何か」

講師 田中 良広 氏(帝京平成大学 人文社会学部 教授)

○ 分科会

第6分科会：自閉スペクトラム症(長崎県・宮崎県)

提案者 小松 美香子 氏(南島原市立西有家小学校)

司会者 村田 勝彰 氏(南島原市立南有馬中学校)

「通常学級における、コミュニケーションや対人面で気になる児童の向社会性を目指した指導」
～全児童の実態把握を行い、話し合い活動を取り入れた授業実践を通して～

提案者 小野 友香 氏(宮崎市立宮崎小学校)

司会者 矢野 美保子 氏(宮崎市教育委員会 学校教育課 特別支援教育アドバイザー)

「コミュニケーションスキル向上のための実態把握と段階的な自立活動の実践」
～自立活動年間指導計画作成と校内や家庭との連携を通して～

第8分科会：LD, ADHD(鹿児島県・熊本県)

提案者 山下 操士 氏(鹿児島市立山下小学校)

司会者 西 隆洋 氏(鹿児島市立山下小学校)

「協働的な学びを支える個別最適な学び」
～自立活動における話し合い活動を通して～

提案者 山崎 大地 氏(熊本市立中島小学校)

司会者 森川 義幸 氏(熊本市立力合西小学校)

「特別支援学級での自己決定とアウトプットを促進する授業」
～デジタルツールを活用した実践～

3 報 告

記念講演では、インクルーシブ教育システムの構築による共生社会の実現を目指すために、教職員が理解するためのキーワードとして「インテグレーション」「インクルージョン」「合理的配慮」「アコモデーション」「モディフィケーション」をあげられた。スマホでQRコードを読み込み、講師の先生とオーディエンスの考えをリアルタイムで度々把握することができた。また、この先の未来に生きていく子どもたちに向き合う教職員の資質や専門性を学ぶことができた。

第6分科会(自閉スペクトラム症)では、本県の宮崎市立宮崎小学校 小野 友香 教諭による「アンガーマネジメント」「レジリエンス」「アサーション」の3つを中心に自立活動の実践を紹介していただいた。綿密な実態把握をもとに、年間指導計画に沿った系統的な自立活動を計画・実施することで、継続的・効果的なスキル学習を行うことができ、対象児童のコミュニケーションスキルの向上につながった実践だった。会場でも先生の実践が高く評価され、積極的な意見交換がなされた。